様式２

| 番号 ＼ 観点 | 発行者の番号・略称 | 使用学年 | 教科書の記号・番号 | 教科書名 |
|---|---|---|---|---|
| | 2・東書 | 第１・２・３学年<br>技術分野 | 技術・724 | 新編　新しい技術・家庭<br>技術分野<br>未来を創る　Technology |
| 取扱内容<br>（学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等） | ○　「Ａ材料と加工に関する技術」<br>　循環型社会や３Ｒなどの持続可能な社会を実現するための方法を話し合うことを通して、材料と加工に関する技術が社会に果たしている役割と影響について理解する活動、自分で製作した製作品と市販されている製品のプラス面とマイナス面を考え、比較することを通して、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。<br>○　「Ｂエネルギー変換に関する技術」<br>　各発電方式の発電量割合を考え、グラフに表すことを通して、エネルギー変換に関する技術が社会に果たしている役割と影響について理解する活動、エネルギー変換に関する技術を選択し、環境、経済、社会などの側面から技術のプラス面やマイナス面を考えることを通して、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。<br>○　「Ｃ生物育成に関する技術」<br>　生産者と消費者の立場に立って、農薬の使用について話し合うことを通して、生物育成に関する技術が社会に果たしている役割と影響について理解する活動、学習した生物を育てる技術を環境的、経済的、社会的側面から比較することを通して、生物育成に関する技術を適切に評価し活用したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。<br>○　「Ｄ情報に関する技術」<br>　情報に関する技術を探して、商業施設における消費電力の割合や自動運転・隊列走行システムなどの情報技術を知ることを通して、情報に関する技術が社会に果たしている役割と影響について理解する活動、情報に関する技術を選択し、環境（エネルギー）、社会、経済的側面などから比較することを通して、情報に関する技術を適切に評価し活用する活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。<br>○　知識・技能を習得、活用、探求への対応<br>　生物育成に関する技術で学習したことをもとに、地域の特産品を調べ、その特徴と理由を考えるなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。 | | | |
| 内容の構成・排列、分量等 | ○　内容の構成・排列<br>　学習内容を 14 の題材（43 の小題材）で構成するとともに、各編について 4 つの内容に関する基礎的・基本的な知識を習得した後に、製作や実習を行い、技術の適切な評価・活用を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。<br>○　内容の分量<br>　「Ａ材料と加工に関する技術」は 90 ページ、「Ｂエネルギー変換に関する技術」は 56 ページ、「Ｃ生物育成に関する技術は」は 44 ページ、「Ｄ情報に関する技術」は 64 ページであり、総ページ数は 290 ページで、前回より約 12%増となっている。 | | | |
| 使用上の配慮等 | ○　各編の始めに、「この編で学ぶこと」を設けたり、各見開きの右下に「パラパラ写真」と脚注には、「ひとくちＱ＆Ａ」を設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。<br>○　複数の実習例を示したり、「～みよう」マークで始めやまとめの活動を示したりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。<br>○　全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすいフォントにするなど工夫するとともに、各ページの横に見出しを設けたり、実習等で安全に活動できるよう「安全」「衛生」マークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。 | | | |
| その他 | ○　北海道と関連のある教材は、「函館市の遺跡から出土した漆塗りの装飾品」など 5 箇所取り上げられている。<br>○　学習の目的を理解する「始めの活動」と学習内容を確認し、広がりをもたせる「まとめの活動」を設けている。<br>○　さまざまな職業で働く技術者などを紹介し、ものづくりへの興味・関心を高めるとともに勤労観、職業観の育成を目指して、「技術の匠」－働く人の思い－を掲載している。 | | | |